

STAGE 2 目標に応じた言語活動の設定

POINT

教室を実際のコミュニケーションの場にする

(1) 英語は使いながら習得するもの

英語を習得し使えるようになることは、スポーツができるようになるのによく似ています。サッカーやテニスなどの技能を身につける時のことを思い浮かべてみてください。筋力トレーニングや基本動作などから始め、徐々に技を増やしていき、ある程度できるようになったらミニゲームなどの実践を行います。その過程でたくさん練習し、試行錯誤を繰り返すことによって、少しずつ上達していき、他校との試合などで身につけた力を出せるほどになります。

このことを英語の授業にあてはめるとどうでしょうか。生徒は、音読やパターンプラクティスといった基本的な練習を行いつつ、目的を持って読む活動や友達と英語で即興的なやりとりをするといった実践的な練習や、家庭での復習などを行うことで、試行錯誤を繰り返しながら、英語を実際に使えるようになっていくと考えられます。

(2) 教室英語 (Classroom English) のすすめ

「英語を使う」といっても、日常的にそのような機会がある生徒は少なく、ほとんどの生徒にとっては、週4回の英語の授業だけが、英語を使う場となります。授業を実際のコミュニケーションの場面とし、生徒がたくさん英語に触れ、活用できるようにするためには、先生が率先して英語を使うことが大切です。

あいさつや指示する英語は、毎回のように授業で使うものなので、生徒は繰り返し触れることで、日本語に訳さずに、自然に英語を理解するようになります。たとえ未習の表現であっても、例えば、「Have you finished?」など、実際の場面で使える表現は、1年生からどんどん使っていくとよいでしょう。

また、「ほめる英語」は、生徒の意欲の向上にもつながります。例えば、「You did a Good job!」「Great!」などの言葉とともに、表情や声のトーンを工夫すると、生徒は非言語コミュニケーションの重要性も体感できます。「促す英語」も使うとより効果的です。行動を促すだけでなく、思考を促すような疑問詞を使った問いかけ (What do you think? など) は、日常的に取り入れたい表現です。

教室英語では、生徒の英語を引き出すことが大事です。1年生のうちから、意識的に英語でやりとりするようにしていきましょう。

◆ 教室英語 (Classroom English) の例

あいさつ等

- Hello / Good Morning / Good Afternoon, everyone.
- Goodbye / See you, everyone.
- That's all for today. / Have a nice day.
- How are you? & I'm fine / good / OK / sleepy / hungry, etc.
- How's the weather? & It's fine / sunny / rainy / cloudy / windy, etc.
- What day is today? (What day is tomorrow? / What day was yesterday?)

指示等

- Open / Close your _____. (textbook, notebook, file, pen case, etc.)
- Pick up / Put down your pen. (pencil, red pen, etc.)
- Write your name in English.
- Last person, please collect _____.
- Stop talking / writing and listen carefully.
- Have you finished?
- Do you have any questions?
- Make pairs / groups of four.

ほめる、うながす等

- Good job / Nice / Well done, etc.
- That's right.
- Nice try.
- Take it easy / Relax.
- Thank you. & You're welcome.
- Let's give her / him a big hand.
- How about you?
- What do you think?
- Why do you think so?

生徒から

- Here you are. & Thank you.
- One more time, please.
- Can / May I ask you a question?
- How do you say / spell _____ in English?
- We are ready.
- We've finished.
- I think / I'm afraid that...
- I agree / don't agree because ...

(3) Input for Output の考え方

母語でない言語を話したり書いたりする、つまり「アウトプット」できるようになるためには、大量の「インプット」が必要です。そのためには、聞いたり読んだりする活動を授業の中で意識的に取り入れる必要があります。例えば、前項で紹介した教室英語は、「聞くこと」によるインプットであると同時に、生徒に英語を話させることにもつながるので、アウトプットを引き出す活動であると言えます。

また、「読むこと」によるインプットという、一般的には、一文一文の意味を確認しながら進めるといった活動を思い浮かべるかもしれませんが。確かに英文理解をする上では、丁寧に読むという活動も大切です。しかし、日常の場面では、ざっと読んで全体の内容をつかんだり (skimming)、特定の情報を素早く見つけたりする (scanning) が必要となってきます。

まとまりのある英文を読む活動をする際、全てを訳読するのではなく、タイトルや文脈の流れから概要を理解するなど、「直読直解」の力をつける活動を取り入れることが大事です。生徒にとって未知の英文、特に少し易しい英文をたくさん読む活動は、そのような力をつけることにつながるだけでなく、「読めた」という達成感を得ることができ、学習意欲の向上につながります。

本事業における洋書を活用した指導を行うことは、このような点でも大変効果的です。

さらに、読んで終わるのではなく、読んだものについて話したり書いたりするなどのアウトプットの活動につなげることが重要です。

<読む活動を他の活動につなげる活動例>

- 読んだ英文について、感想を述べる (書く)。
- 読んだ英文の「その後」のストーリーを書き加える。
- 読んだ英文に使用された挿絵を使って、他者にあらすじを説明する。
- 読んだ英文を他者に紹介するプレゼンテーションを行う。 等